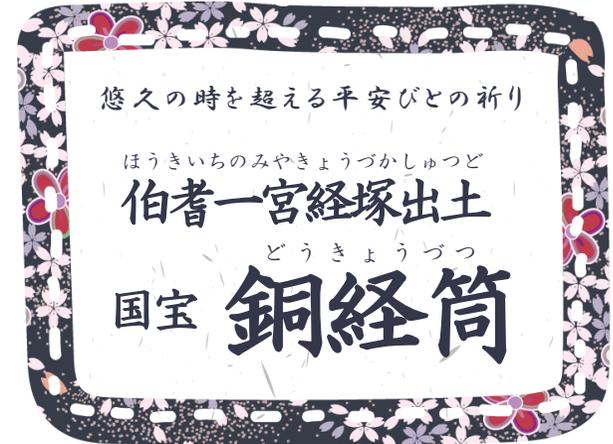




(左) 銅造千手観音菩薩立像
(平安時代)
(右) 金銅観音菩薩立像
(白鳳時代)



銅板線刻弥勒菩薩立像
(平安時代)



伯耆国一宮 倭文神社

鳥取県東伯郡湯梨浜町宮内754番地
電話 0858-32-1985

倭文神社は伯耆国の一宮として知られている古社で、創建は明らかでないが、延喜式神名帳にその名がみられる式内社である。この地方は古代より倭文織(しずおり)：麻などの繊維を赤や青に染めて縞模様などを織り出したもの)の生産が盛んだったため、建葉槌命を主神とし、そのほかにも下照姫命、事代主命、建御名方命、少彦名命、天稚彦命、味耜高彥根命など、出雲系の神が祀られている。

近辺には大国主命の娘である下照姫命に関する伝承が多く、神代の昔、下照姫命が出雲からやって来て、御冠山を背後にしたこの地に住居を定めたのが、神社の始まりとされている。天慶3年(940)には正三位の神階を受けており、年代不詳だが「正一位伯州一宮大神宮」の額も残されている。

経塚が造られた平安後期は神仏習合の時代で、大きな神社には神宮寺と呼ばれる寺院が付属していた。銅経筒を埋納した京尊も、倭文神社の神宮寺の僧侶であったと思われる。

戦国時代までは社地は広大であったが、戦乱で荒廃したのちは、有力な武士の寄進を受けて存続した。天文23年(1554)尼子晴久が社殿を造営、元龜元年(1570)には南条宗勝が復旧している。現在の社殿は文化15年(1818)に建立された。毎年5月1日の例祭は「一宮さん」として親しまれる近郊最大の祭で、神輿渡御には稚児たちも参加してにぎわう。



【倭文神社と経塚への行き方】
J R松崎駅から車で約10分
徒歩で約50分



湯梨浜町教育委員会

平成31年4月発行

〒682-0723鳥取県東伯郡湯梨浜町久留19-1
湯梨浜町教育委員会事務局生涯学習・人権推進課
TEL 0858-35-5368 FAX 0858-35-5376

国史跡 伯耆一宮経塚

経塚とは

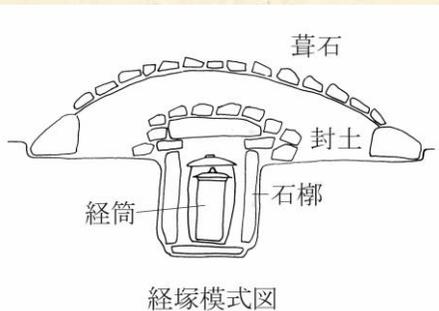
平安時代末期（12世紀頃）、世の中には末法思想が蔓延していた。末法とは釈迦の教えが失われ、世の中が乱れる時代を指し、当時の解釈では平安末期はちょうど末法の時代に入る時期だと考えられていた。このため、釈迦の教えを後世に伝えようと、経典を丈夫な容器（経筒）に入れて土中に埋め、魔除けの鏡や刀子などを添え、その上に土や石などを積み上げた「経塚」が全国各地で作られた。経筒は一種のタイムカプセルで、末法が終わる56億7千万年後、弥勒が衆生を救うために来迎する際に必要だと考えられていた。

伯耆一宮経塚発見秘話

伯耆一宮経塚は、倭文神社境内の南東の林の中にある塚で、古来、祭神である下照姫命の墳墓であると伝えられていた。また「元日の朝に金の鶏が鳴く」という、金鶏伝説の舞台でもあった。

大正4年12月11日、付近に住む5人の男がこの塚を発掘したところ、地表から1.5m下に安山岩の石槨が現れ、その中から銅製の経筒、瑠璃玉、小軀の観音菩薩立像2体、銅版線刻弥勒菩薩像1体が発見された。数日後、さらにすぐそばの土中から、銅鏡、短刀、刀子、銅銭、桷扇の残片、漆器片なども発見された。男達は大変なものを発見したと驚いて、京都の古美術商に鑑定を依頼したところ、見たこともないような大変な逸品で値段が付けられないと言われたという。

その後、出土品は倭文神社の所有となり、大正9年に国宝に指定された。（戦後、国宝の制度が変わったため昭和28年に再指定された。）経塚は昭和10年に国の史跡に指定された。



国宝 銅経筒 (全高42.5cm 筒身直径12.9cm)

中に経典（法華経）を納めた銅製の筒。経典はおそらく紙製であったため残存していない。笠、筒身、台座の3部からなる。笠は方形で、上面に釈迦・多宝・弥陀・弥勒の種字を彫り、四隅とその中間の8カ所に瓔珞を取り付けるための輪がある。

筒身は円筒状で、全面に15行236字の銘文が彫られている。銘文によれば、康和5年（1103）に一宮神宮寺の僧「京尊」という人物が、56億7千万年後に弥勒が出現した時に掘り出して、すべての人が悟りへと至ることを願い埋納したことがわかる。しかしわずか800年足らずで掘り出されてしまった。

また文中には「東郷御座」という文言があり、平安時代からこの一帯が「東郷」の名で呼ばれていたことがわかる。

現在は東京国立博物館平成館に常設展示されている。



銘文全文

釋迦大師壬申歲入寂日本年代記康和
五年癸未歲粗依文籍勘計年序二千
五十二載也今年十月三日己酉山陰道
伯耆國河村東郷御坐一宮大明神御前
僧京尊奉養如法經一部八卷即社辰巳
岳上所奉埋納也願以此書寫供養之功
結緣親疎見聞群類縱使雖異受生之
所昇沈必定值偶慈尊之出世奉壻顯
此經卷自他共開佛之知見仍記此而已
願以此功德普及於一切我等與衆生皆共成佛道
釋迦舍那成道場成正覺一切法界中轉於无上輪
正遍知者大覺□ 邊際智滿方知斷
捕處今居都華天 下生當坐龍花樹
願我生生見諸佛 世世恒聞法華經
恒修不退菩薩行 自他法界證菩提

現代語訳

今年康和五年は、釈迦が亡くなってから二〇五二年に当たり、末法の時代に入った。そのため、伯耆国河村東郷に鎮座する一宮大明神の御前で、僧京尊が如法経（法華経）一部八巻を供養し、社殿東南の丘の上に埋めておく。この経文書写の功によって、すべての人が弥勒の出現に出合えば、この経巻を掘り出し、自他ともに仏の悟りを開くことを願う。

釈迦は悟りを開いて、仏法世界の最上の地位にあるが、やがて弥勒菩薩として、この世に姿を現されるであろう。私は、生きかわり死にかわり、いつの世までも諸仏にまみえ、常に法華経を聞き、修行を重ねて、すべての人が悟りを開くことを願う。